PLACER

The 31th Business Report — Vol.3

第31期　事業報告書　2003年4月1日から2004年3月31日まで

Top Interview …P2

“情報”をキーワードに、パチンコホール、遊技機メーカー、パチンコファンの“夢むすぶ。”

ダイコク電機最前線 Fade in …P5

- 深夜の人気番組『パチンコNOW TV2』がリニューアル
- 展示会&セミナー開催『C-evolution 2004～進化する営業戦略』
- ダイコク電機戦略情報システム「DK-SIS」1,000会員突破

営業のご報告 …P7

DAIKOKU DENKI

証券コード：6430

2004年4月1日　東京証券取引所・名古屋証券取引所の市場第一部指定を機に、企業広告を一新しました。
広告のキャッチコピーは「夢むすぶ。」です。
当社がこれから、広く大きな視野を持った「エンターテイメント情報企業」として、
夢を描き、その夢を実現しようとの願いが込められております。
当社は、今日まで多くの夢を描きながら、その夢を現実のものとしてきました。
これからさらに、社員全員で「もっと大きな夢」を描き、共有し、現実のものとしていきたいと思います。

今回の広告には「地球上にこんな不思議な空間があるのか！」と思ってしまう場所に、哺乳動物のリャマ（ラマ）が、朝夕決まって立ち寄る小さなオアシスを中心に撮影しました。このオアシスは、リャマにとっては、毎日の活力であり、なくてはならない元気の源となっております。アンデスの標高3,500m～4,000mの厳しい環境のなかで、生きていく力を与えてくれるオアシスは、私たちの暮らしに不可欠な「エンターテイメント」であり、「ホッと夢見る時間」であり、飲み水は、各種「情報」のたとえでもあります。リャマの表情は、豊かな心の動きさえ感じさせます。あるものは群れ、あるものは単独で、また、あるものは仲睦まじく親子で移動しております。こうしたシチュエーションは、なぜかしら人間とその社会を表しているようにも思えてきます。見る人の心によって、いろいろな感情や意味、解釈が引き出されることでしょう。この広告には「人と情報」「エンターテイメント」「環境」など、いま必要な、そしてこれからますます注目されるテーマが潜んでいます。日本では決して見ることのできない自然の色やかたち、紺碧の空と白い雲、光、遠くの山々、そうした大自然の雄大さや美しさをとらえた映像は見た人に新鮮な感動と安らぎを与えると確信しております。
なお、このCMは、当社提供パチンコ情報TV番組「パチンコNOW TV2」でご覧いただけます。

代表取締役社長 小山　晴久

“情報”をキーワードに、パチンコホール、遊技機メーカー、パチンコファンの“夢むすぶ。”

一部上場について

── 一部上場おめでとうございます。今の率直な感想をお聞かせください。

大変名誉なことであり、株主の皆さまやご尽力いただいた方々のご支援の賜物と深く感謝いたします。一部上場ということで責任の重さも感じていますが、ダイコク電機を成長させることでこの責任を果たしていきたいと考えています。

パチンコ業界の最新市場情報

── 景気の低迷で、パチンコ市場も伸び悩んでいますね。

パチンコは昔から庶民のささやかなレジャーのひとつでしたが、景気の低迷でサラリーマンのこづかいが減るなど、パチンコファンの数は一進一退が続いています。最近のパチンコは以前に比べて射幸性の高い機種が増え、少額の元手で勝つということは難しくなっています。そうした面も集客に影響を与えているのかもしれません。ただ、最も支持されているレジャーであることに変わりはありません。

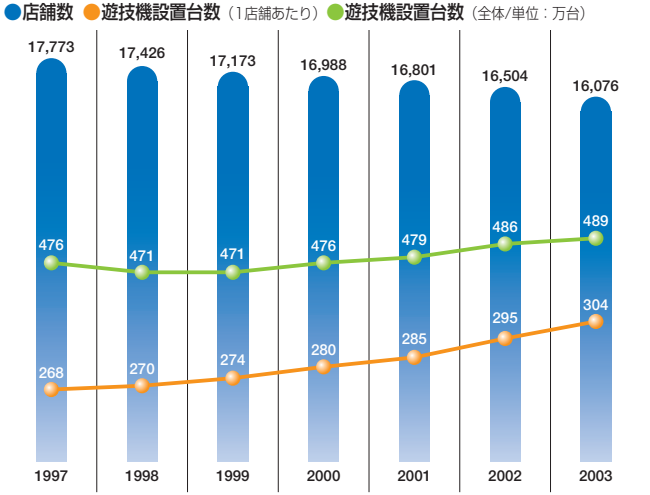
── パチンコホールは大型化が進んでいるということですが。

パチンコホール数は2003年末で16,076店となっており、この1年で約428店が閉店しました。ところが1店舗あたりの遊技台数は295台から304台と増えており、全体の設置台数も486万台から489万台へと逆に増えています。この傾向はここ数年続いており、店舗の大型化を積極的に行う強い店が生き残り、弱い店が閉鎖するという構造となっています。

── パチンコ業界の経営革新にはダイコク電機のサポートが必要のようですね。

当社は、遊技機だけでなくパチンコホール全体を管理するホールコンピュータの枠組を創造してきた企業です。個々の店舗の情報はホールコンピューティングシステム「C」がサポートし、全国のパチンコ業界の情報は戦略情報システム「DK-SIS」を通してダイコク電機のホストコンピュータに集まるようになり、従来は“経験と勘”に頼ってきたパチンコホールの

パチンコ店舗数及びパチンコ・パチスロ遊技機設置台数の推移



調査資料の出処/警察庁生活安全局生活環境課「平成15年における風俗警察の現状について」(2003年12月末日現在)

経営情報が蓄積されるようになっています。パチンコホールの経営陣も戦後に創業した第一世代から、第二世代、第三世代に移ろうとしています。創業者には独特の“経験と勘”がありましたが、若い経営者には残念ながらこの部分が不足しています。様々な経営リスクを最小限にとどめていくためにも、外部からの客観的な情報が求められるようになっています。

ダイコク電機の市場戦略

── パチンコ業界に対するダイコク電機のサポートビジネスについて簡単にご紹介ください。

当社の収益基盤は、1つはパチンコホール向けコンピュータシステムの開発・製造・販売です。特に遊技機を管理するホールコンピュータでは全国シェアの40.0%、全国6,400店舗以上に納入しています。これらの情報システム事業は当社売上の55.2%を占めています。

2つめはパチンコ遊技機用表示ユニットや制御ユニットの開発・製造・販売です。ホールコンピュータメーカーとして培った遊技機データ管理のノウハウを活用して、人気機種の傾向分析を行い、それに基づく仕様・遊技性を表示ユニットや制御ユニットに盛り込み遊技機メーカーに提案し、搭載していただきます。2004年3月期は表示ユニットで11機種18.6万台、制御ユニットで10機種11.6万台を販売いたしました。制御システム事業は当社売上の44.8%を占めています。

──主力のパチンコホール向け情報システムに、「DK-SIS」と「C」がありますね。こちらをご紹介ください。

戦略情報システム「DK-SIS」は、当社のホストコンピュータと既存ユーザーである全国の有力パチンコホールをネットワークで結び、日々の営業データを収集・分析・加工後、パチンコホールにフィードバックして店舗経営に役立てていただく業界唯一のシステムです。一方、ホールコンピューティングシステム「C」は、総合営業管理システムでして、遊技機の管理だけでなくデータロボなどの情報公開端末から呼出ランプ、計数機などホールで必要になる全ての情報システム機器を統合する新しい発想のシステムです。

──ホールコンピュータのシェアの考え方は、これまで店舗ベースで行われてきましたが、ダイコク電機の最新の動きでは遊技機管理台数ベースに切り替えていますね。その狙いは。

ホール数の減少に影響されない収益体制づくりを狙ったものです。ホールコンピューティングシステム「C」はまだまだ伸びる余地はありますが、店舗数が頭打ちという状況のなかでは、1店舗に1台のホールコンピュータという発想から、何台の遊技機を管理するかという考えに変えました。将来的に呼出ランプやプレジャービジョンなど遊技機1台1台に附属する製品のバリエーションを増やしていこうという発想です。

──パチンコホールは“情報”を活用しないと生き残れないとお考えですか。

パチンコホールも店舗が大きいだけではダメだと思います。大型店は薄利多売が基本ですから、どうしてもフル稼動しないと利益が出ない構造です。大きくなったら人件費をはじめ維持費が少なくなるかといえば、そうでもありません。稼動率が落ちると、とたんに経営が不安定になっていきます。

パチンコ市場にも、地域の特性に合わせた適正な台数があり、それを無視して経営は成り立たないと思うようになりました。現に、小さなホールでもしっかりした経営ができているホールもたくさんあります。経営効率と地域特性を踏まえて経営を見直すには“情報”の活用は欠かせません。

ダイコク電機の将来像

――ダイコク電機の強みであるパチンコホール向けコンピュータシステムのシェアは、どこまで伸ばせそうですか。

DK-SIS会員数は、2003年3月が724ホールでしたが、1年後の2004年3月期末実績は1,100ホールを突破。2006年3月末までに1,500ホールを目指します。ホール数は全国で16,076店ですから、十分可能な数字だと思います。

ホールコンピューティングシステム「C」での遊技機管理台数は、2003年3月が25.1万台でシェアは5.3%。2004年3月期末実績は44.7万台でシェアは9.1%ですが、2006年3月末までに80万台、シェアで16.2%を目指します。短期的には「DK-SIS」を武器とした「C」の普及、長期的には「DK-SIS」と「C」の一体化も視野に入れています。この2つを融合した高度なデータ管理が提案できれば、業界におけるブランド力は一層高まると思います。

――パチンコ遊技機用表示ユニットや制御ユニットは、いかがですか。

開発力の強化に向けて2003年4月東京・表参道にデザインスタジオを設けましたが、その成果がでるのは2005年3月期からだと思います。表示ユニットや制御ユニットには遊技機のメカニックな部分と電気的な制御部分のマッチングという問題がありますので、これからはユニットだけでなく、遊技機丸ごとでの提案や、電機部品メーカーから総合アッセンブリメーカーへの移行も視野においています。

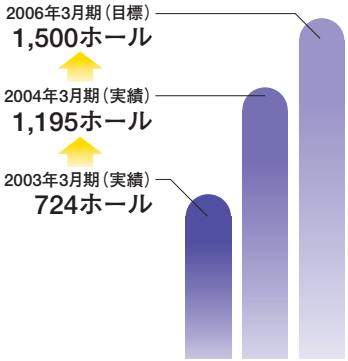
――パチンコファンに向けた情報発信もありますね。

はい。パチンコホールへの来店動機を拡大する目的でつくられた「パチンコNOW」があります。有料会員向けの情報提供サービスですが、どのホールのどの機種の成績が良いのかといった情報をパソコンや携帯電話などをとおして得られる仕組みです。ライトユーザー向けとヘビーユーザー向けのコンテンツがありますが、閲覧インフラの充実や閲覧端末の充実で収益貢献できるところまできました。有料会員数は2004年3月期末実績で13.3万人ですが、2006年3月末には21万人を目指しています。

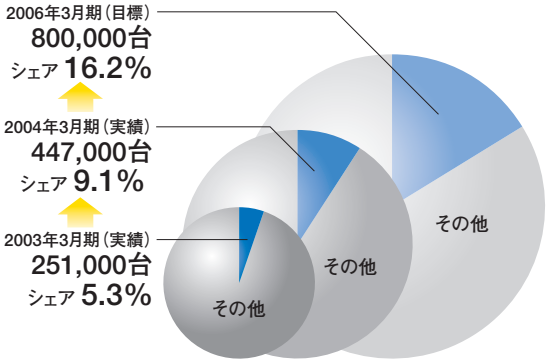
――上場時の広告には「夢むすぶ。」というフレーズが使われていますが、その言葉に込められた社長の思いは。

ダイコク電機は創業時から企業としての“夢”、社員一人ひとりの“夢”、そして社会の期待感や“夢”を背負って歩んできました。これからもそうした“夢”をひとつの線の上に結びながら、共有し、実現していきたいと考えています。また、私たちは、パチンコホール、遊技機メーカー、パチンコファンの三者の“夢”を結ぶ「エンターテイメント情報システム企業」としてもさらなる飛躍を目指します。

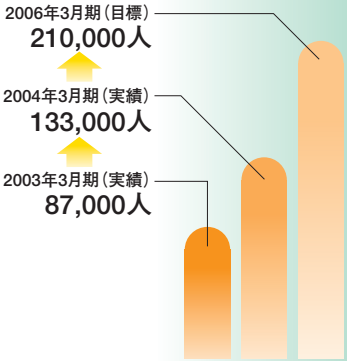
DK-SIS会員数



ホールコンピューティングシステム「C」の遊技機管理台数



「パチンコNOW」有料会員数



ダイコク電機
最前線

Fade in

深夜の人気番組『パチンコNOW TV2』がリニューアル

当社が制作協力し、番組提供していますパチンコ情報TV番組「パチンコNOW」の放送開始からはや13年。2004年4月からシリーズ第4弾「パチンコNOW TV2」がスタートしました！MCに2004年ユニチカマスコットガールの村上恵梨を迎え、「ホールどUP！」や「新台NOW」はもちろん、携帯電話・PCサイトの情報も満載してお伝えしていきます！！ぜひご覧ください。

●放映放送局（☆印はダイコク電機一社提供局です。）

☆	北海道放送	HBC	毎週木曜日	深夜1時55分
	秋田放送	ABS	毎週土曜日	深夜0時50分
	岩手放送	IBC	毎週金曜日	深夜0時40分
	東北放送	TBC	毎週金曜日	深夜1時30分
☆	テレビ埼玉	TVS	毎週日曜日	深夜0時00分
☆	テレビ神奈川	TVK	毎週土曜日	夜 11時30分
	富山チューリップテレビ	TUT	毎週土曜日	深夜2時15分
	信越放送	SBC	毎週日曜日	深夜0時30分
☆	中部日本放送	CBC	毎週日曜日	深夜0時45分
☆	サンテレビ	SUN	毎週日曜日	深夜0時00分
	山陰放送	BSS	毎週土曜日	深夜1時40分
☆	山陽放送	RSK	毎週日曜日	深夜0時30分
☆	中国放送	RCC	毎週日曜日	深夜0時30分
☆	テレビ九州	TVQ	毎週日曜日	深夜2時30分

展示会＆セミナー開催『C-evolution 2004～進化する営業戦略』

2004年2月2日より「新製品発表展示会＆セミナー」を、全国4会場でのべ5日間（名古屋、福岡、大阪、東京2日間）開催いたしました。

新製品の営業演出用コンピュータ「ホールアレンジャHA-55」をメインとした展示会と、当社コンサルタントプロモーションチームによるセミナーの二本立てで、テーマを『C-evolution 2004～進化する営業戦略』とし、当社ユーザーであるパチンコホールに向けて「進化・パワーアップしたCシステム」「進化したDK-SIS新コンテンツ」「パチンコ遊技機の規則改正における戦略進化論」の3点について、具体的な提案を展示会場やセミナー会場で行いました。

展示会場の各コーナーでは製品の即売会も行い、セミナーでの問題提起と相まって、戦略情報システム「DK-SIS」をはじめ、「ホールアレンジャHA-55」が非常に高く評価され、予想以上の当日成約をいただきました。

また、その後もホールコンピューティングシステム「C」の受注は順調に推移しており、今後の手応えを十分に感じ取ることができました。

ダイコク電機 戦略情報システム「DK-SIS」1,000会員突破

1989年にサービスを開始しました戦略情報システム「DK-SIS」は、2004年で15年目に入りました。

当初はサービスの根源であるパチンコホールの営業データが「0」の状態からのスタートで、見るものがなければサービスも成り立ちませんので、多くのパチンコホールにサービスのメリットを説き、データの提供をお願いし、非常に苦労してデータを収集しました。

ようやく業界の傾向が把握できるまでのデータになったのが1994～1995年、そこから1998年までは会員数も順調に推移しましたが、コンピュータ2000年問題の影響でサーバーを全面的に移行したことにより会員数がピーク時の3分の2まで減少してしまいました。こうした荒波を乗り越えて、2004年3月期は価格体系の見直しやユーザーのパソコンでも利用可能なフリーPCサービスの開始など、1,000会員獲得に向けて全社一丸で努力した結果、2004年2月をもちまして1,000会員を突破いたしました。当社は今後ともDK-SISのさらなる強化に努め、他社との差別化を目指した製品づくりに邁進してまいります。

※ご注意
- 放送時間は予告なく変更する場合があります。
- 北九州地区でご覧の皆さまへ…
  2004年4月より、RKB毎日放送からテレビ九州へ放送局が変更になりました。
- 山陰放送をご覧の皆さまは、1週遅れとなります。

●来場者数

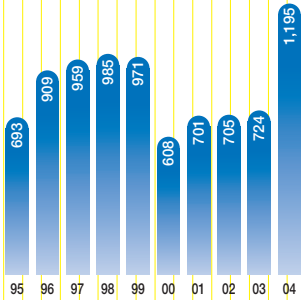
名古屋会場	276名
福岡会場	273名
大阪会場	321名
東京会場(2日間合計)	954名
合計(4会場・5日間)	1,824名

5日間の総来場者数も1,824名と当初の予想より多くの方にご来場いただきました。

●セミナー会場

当社コンサルタントプロモーションチームによるセミナーは、
第一部 「勝ち組の情報戦略はここが違った!」
第二部 「勝ち組への営業戦略はこれだ!」の2部構成で行いました。
セミナーでの問題提起が「差別化する営業戦略」というタイムリーなテーマであったため予想以上の反響を得ることができました。

●「DK-SIS」会員数推移(ホール)



New Products
新製品情報

ビッグボーナス回数3桁表示
「ロボパートナーIL-90Cdash(パチスロ用)」

従来の呼出ランプではビッグボーナス(大当り)回数2桁表示が標準でしたが、1日に100回を越える人気遊技機が登場し、当社では100回以上(max199回)の大当り回数を表示できる呼出ランプ「ロボパートナーIL-90Cdash」を2004年1月リリースしました。3桁表示が遊技客に出玉感を与えます。

営業演出用コンピュータ
「ホールアレンジャ HA-55」

パチンコホールにとってファンへのサービスや他店との差別化戦略として、なくてはならない重要な要素が「営業演出」です。2004年2月にデータ分析はもちろん、営業中に「営業演出」で貢献できるホールコンピュータとして、今までどこにもなかった全く新しい機能を搭載した営業演出用コンピュータ「ホールアレンジャ HA-55」をリリースいたしました。

事務所の中でパチンコホール全体を見渡せるマップ形式のビジュアル画面からアピールすべき優秀台や従業員の目では確認しきれない目標達成台などを一目で把握し、マイク放送などにより、リアルで正確なデータを遊技客に向けて演出できますので、アピールチャンスを逃しません。

●当期（2004年3月期）の取り組みと成果

個人消費の低迷により、パチンコファンの数はほぼ横ばいとなっています。また、警察庁生活安全局生活環境課の発表によれば、パチンコホールは、2002年に比べて428店舗減少し16,076店舗となり、1995年をピークに減少し続けています。

パチンコホールの遊技機設置台数は4,891,944台で27,882台増加しており、店舗の大型化傾向がますます顕著になっています。

2004年1月に警察庁より「風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律施行規則」及び「遊技機の認定及び型式の検定等に関する規則」などの一部改正が公布され、2004年7月から施行されます。この規則改正の影響が不透明なため、パチンコホールでは出店計画などが立てづらい1年でしたが、勝ち組企業による大型店の新規出店や既存店の大型化が見られた反面、閉店を余儀なくされたパチンコホールも多くありました。

このような状況のもと、情報システム事業では、勝ち組企業にホールコンピューティングシステム「C」や情報公開システムのプレジャービジョンなどの納入を進めましたが、制御システム事業では、前期のような大ヒット機種を出せなかったことなどにより、売上高は前期との比較では微減となりました。当期純利益は税制改正により法人税などが減少したことに伴い、前期より微増となりました。

売上高394億33百万円（前期比2.1%減）、営業利益48億49百万円（同11.3%減）、経常利益53億42百万円（同6.5%減）、当期純利益30億68百万円（同2.9%増）となりました。

●対処すべき課題

＜情報システム事業＞

●コンサルタント力のさらなる向上による営業力強化及び大手非ユーザー獲得活動の推進

当社営業社員がDK-SISデータの活用方法や製品の内容を理解し、コンサルタント力を身につけることにより、パチンコホールに対してホールの業績向上のための提案を行います。また、大手非ユーザーに対して具体的なターゲットホールを定め、コンサルティングセールスによる当社製品の導入をはかります。

●ホールコンピューティングシステム「C」とDK-SISの融合及び業界初製品にこだわった製品開発体制の強化

「C」の緻密な管理機能とDK-SISの豊富なデータを融合し、コスト競争に巻き込まれないオンリーワンの製品を開発します。また、『ダイコク電機の製品を導入すればホールの業績が向上する』という認識を定着させる業界初の機能にこだわった製品企画、開発を徹底します。

●工事・メンテナンス体制の改善とコスト削減の推進

顧客満足度をさらに向上させるため、工事・メンテナンスの品質・コストを追求し、体制の改善、ルールの定着をはかります。加えて、製品原価をさらに低減するため、製造過程や設計面での見直しとともに在庫を圧縮し、トータルコスト削減を強力に推し進めます。

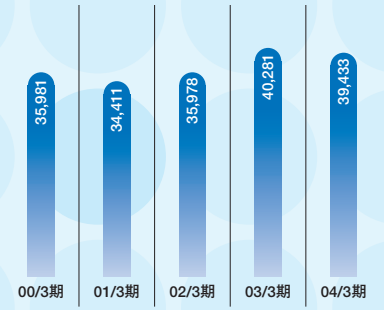
＜制御システム事業＞

●収益性の向上

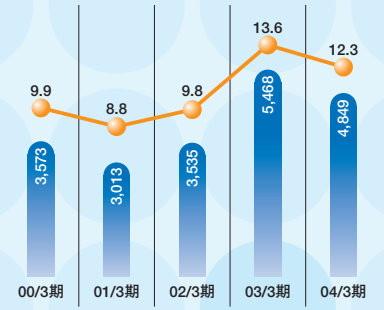
前期同様、業界全体での販売機種数の増加により1機種あたりの開発効率及び販売効率ともにさらに悪化傾向にあります。これに対処するため、取引遊技機メーカーと連携し販売量アップのための強化策を

Key Financial Data 主要財務データ

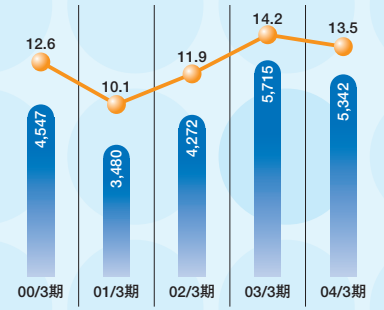
●売上高（単位：百万円）



●営業利益（単位：百万円）
●売上高営業利益率（単位：%）



●経常利益（単位：百万円）
●売上高経常利益率（単位：%）



深めるとともに、市場で評価され、多く販売できる機種開発の強化をしてまいります。

また、設計・製造ともにさらなるコスト意識をもって臨み、収益性の向上を目指します。

●開発体制の強化

2004年7月の規則改正によって、ユーザーニーズや市場ニーズの変化が想定されることから、今まで以上にそのニーズに迅速に対応することが急務と考えております。各遊技機メーカーはリリース機種数についてこれまでと同等の水準を望んでおり、開発スピードは以前にも増して企業競争力の要素となっております。これに対処するため、東京の表参道デザインスタジオのさらなる強化により、開発効率と開発スピードの向上を目指します。また、品質や製品コンセプトでは他社の追随を許さない高い水準での開発体制を構築し、遊技機の総合プロデュースができる事業部隊へと邁進してまいります。

●マーケットシェアの追求

遊技機メーカー毎の販売台数に大きく差がつきはじめており、製品力はもとより、遊技機メーカーの販売戦略が売上に影響を与える大きな要因のひとつになりつつあります。市場への販売を各遊技機メーカーに依存しているだけでは販売量は他律要因でしかありません。そこで、販売支援にも重きを置き、各遊技機メーカーの販売戦略に入り込み、一緒になって市場にどれだけ食い込めるかを模索してまいります。また、DK-SISを活用した戦略的なマーケットシェア分析と営業活動によって、マーケットシェアの拡大を推進します。

●2005年3月期の見通し

わが国経済は、緩やかな回復基調が続く一方、個人消費は依然低迷するものと思われます。

パチンコ業界も個人消費の低迷により厳しい状況が続いており、二極化による企業間格差はより顕著になると思われます。

また、2004年7月に施行される規則改正によって、射幸性の高いパチスロ遊技機は規制される反面、パチンコ遊技機は、従来の検定区分（1種、2種、3種）の撤廃によりゲーム性の高いバリエーション豊富な遊技機の開発が可能になると思われます。

このような環境下、当社は戦略情報システムのDK-SISをさらに充実させ、情報システム事業におきましては、ホールコンピューティングシステム「C」による遊技機の有効活用を提案し、制御システム事業におきましては、魅力のあるパチンコ遊技機の提案・開発をさらに強化してまいります。

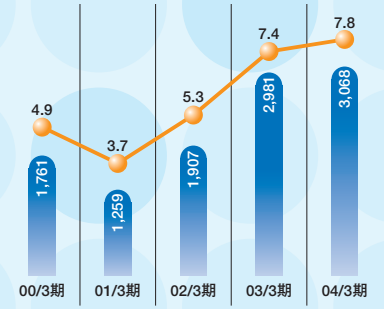
そのため、DK-SISや表参道デザインスタジオでの機種開発整備などの投資を増加させてまいります。

以上により、2005年3月期の業績見通しにつきましては、売上高390億円（前期比1.1%減）、経常利益48億70百万円（同8.8%減）、当期純利益27億90百万円（同9.1%減）を見込んでおります。

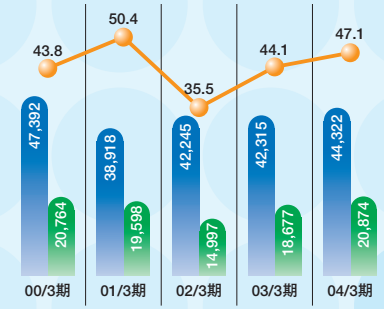
業績の見通しに関する注意事項

本冊子に記載されている市場予測や業績見通しは、当社の経営陣が現在有効な情報に基づき判断したもので、その実現には潜在的リスクや不確実性を含んでおり、さらに業績に影響を与える要因はこれに限定されるものではありません。従いまして、諸要因の変化により実際の業績は記載事項と大きく異なる結果となる可能性があることをあらかじめご承知おきください。

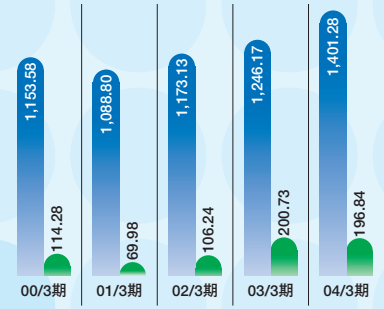
●当期純利益（単位：百万円）
●売上高当期純利益率（単位：%）



●総資産 ●株主資本（単位：百万円）
●株主資本比率（単位：%）



●一株当たり株主資本（単位：円）
●一株当たり当期純利益（単位：円）



（注）一株当たり指標は、遡及修正後の数値を使用しています。

ホールコンピューティングシステム「C」

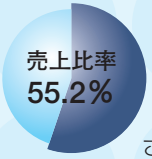
パチンコホールの台管理・景品管理・顧客管理・映像管理・情報公開システムの総合営業管理を行い、パチンコファンの来店誘発の演出とセキュリティ強化に着目したホールコンピュータシステムです。台データ管理機能は従来の基本性能を継承し、新しく柔軟性と拡張性を実現しました。

プレジャービジョン　PV-55(R)

様々な遊技台情報のデータ表示とアニメーションメッセージとを連動させ、遊技台の稼動率向上を促します。データを見る機能以外に、現在遊技中の台の成績を携帯電話やパソコンに送ることができるメールサービス機能など多彩な機能を搭載しております。人から人へ喜びや楽しみを広げる来店誘発製品です。

戦略情報システム「DK-SIS」

当社ホールコンピュータとインターネットを駆使し、SIS会員パチンコホールとダイコク電機との間に高度なネットワークを構築し、日々の営業データを収集し、分析、加工後、付加価値の高い情報を提供する顧客支援システムです。



●情報システム事業

2004年3月期におけるパチンコ業界は、射幸性の高いパチスロ遊技機の撤去問題の影響が心配されましたが、当部門が関わるパチンコホールの設備投資に関しては、全般的に堅調に推移しました。

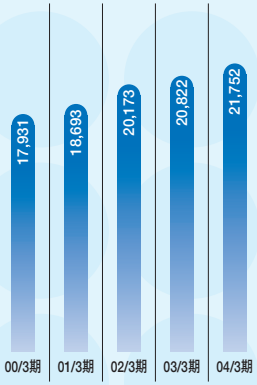
そうした環境下、ホールコンピューティングシステム「C」の台分析機能を強化するとともに戦略情報システム「DK-SIS」のデータを活用し、年間123回にも及ぶ「DKデータ管理セミナー」などのセミナーを開催し、積極的なコンサルティング活動を行った結果、ホールコンピューティングシステム「C」や情報公開システムのプレジャービジョンなどが好調に推移しました。

また、パチンコホールを対象とした戦略情報システム「DK-SIS」の会員数も着実に増えて1,195ホールとなり、パチンコファンを対象とした携帯電話公式サイト「パチンコNOW」は情報提供サービスのコンテンツ強化により会員数は13万人を超えました。

その結果、当部門の売上高は217億52百万円(前期比4.5%増)となりました。

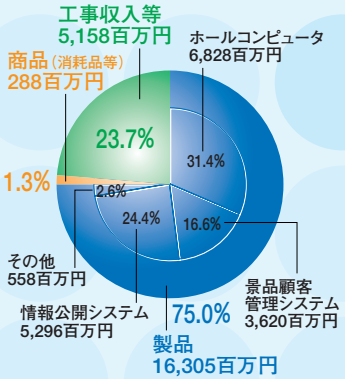
●情報システム事業売上高

(単位：百万円)



●情報システム事業売上高構成比

(百万円未満は切捨て)



●制御システム事業

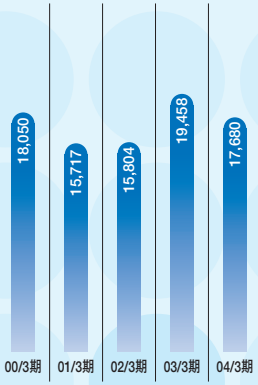
2004年3月期の遊技機市場は、2004年7月に施行される「遊技機の認定及び型式の検定等に関する規則」の改正が市場にどう影響するのか不透明感が増しておりました。

遊技機検査機関である(財)保安電子通信技術協会(保通協)への各遊技機メーカーからの申請・適合件数は、同協会のホームページによると、2004年3月期はパチンコ遊技機では申請件数、適合件数ともに増加し、適合機種数で641機種(前期比92機種増)となりました。パチスロ遊技機では、申請件数は増えたものの、適合件数では減少傾向にあり、適合機種数は、225機種(同59機種減)となりました。このことから、パチスロ遊技機では、爆裂機の問題もあり、型式認定の審査が厳しくなってきていることが伺えます。

このような市場環境のなか、当事業部門は、2003年3月期に比べて販売機種数は増加しましたが、一部の人気機種が市場を席巻したことなどにより、1機種あたりの販売台数が伸び悩みました。これらの影響により、出荷数量は制御ユニットで11.6万台(前期比42.8%減)、表示ユニットで18.6万台(同32.1%減)と2003年3月期を大きく下回り、商品販売において79億21百万円(同46.0%増)の上乗せができたものの、当部門の売上高は176億80百万円(同9.1%減)となりました。

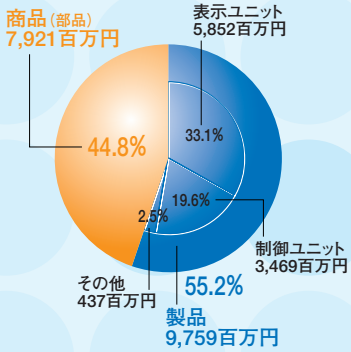
●制御システム事業売上高

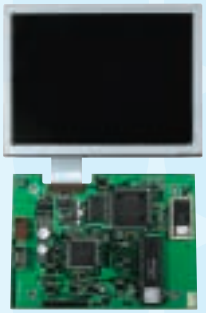
(単位：百万円)



●制御システム事業売上高構成比

(百万円未満は切捨て)





表示ユニット

パチンコ遊技機のゲーム内容を表現する部分で、ハードウエアとそれに搭載されるプログラムから構成されます。

制御ユニット

基本動作をつかさどるハードウエアとそれに搭載されるプログラムから構成され、パチンコ遊技機の心臓部といえます。

商品

パチンコ遊技機に使用されるスイッチ、ソレノイドなどのオートメーションパーツの仕入販売をしております。

●当社ユニット搭載の主なパチンコ遊技機

CR ブルース・リー

BRUCELEE and the Bruce Lee likeness are trademarks and copyrights of Concord Moon L.L.P.
Licensed by Universal Studios Licensing LLLP. All rights reserved.
Films footage are copyrights of STAR Filmed Entertainment.
Licensed by Fortune Star Entertainment. All rights reserved.
株式会社高尾

CR 横山やすし伝説

©吉本興業
豊丸産業株式会社

CR チャールズ・チャップリン

CHARLES CHAPLIN™
© Bubbles, Inc. S.A. 2004
Licensed by Copyrights Group
株式会社奥村遊機

●貸借対照表（要旨）

科　目	第31期 2004年3月31日現在	第30期 2003年3月31日現在
資産の部		
流動資産	27,525	25,249
固定資産	16,797	17,066
有形固定資産	7,986	8,162
無形固定資産	1,582	1,364
投資その他の資産	7,228	7,539
資産合計	44,322	42,315
負債の部		
流動負債	18,260	17,473
固定負債	5,187	6,164
負債合計	23,448	23,637
資本の部		
資本金	674	674
資本剰余金	680	680
利益剰余金	19,515	17,322
その他有価証券評価差額金	5	1
資本合計	20,874	18,677
負債及び資本合計	44,322	42,315

（単位：百万円、百万円未満は切捨て）

●損益計算書（要旨）

科　目	第31期 2003年4月 1日から 2004年3月31日まで	第30期 2002年4月 1日から 2003年3月31日まで
売上高	39,433	40,281
売上原価	26,058	25,601
売上総利益	13,374	14,679
販売費及び一般管理費	8,524	9,211
営業利益	4,849	5,468
営業外収益	694	564
営業外費用	202	317
経常利益	5,342	5,715
特別利益	2	—
特別損失	76	263
税引前当期純利益	5,268	5,451
法人税、住民税及び事業税	2,030	2,470
法人税等調整額	170	0
当期純利益	3,068	2,981
前期繰越利益	1,383	1,270
当期未処分利益	4,451	4,251

（単位：百万円、百万円未満は切捨て）

●資産・負債・資本の状況

総資産は、前期末と比べ流動資産が22億75百万円増加しましたが、固定資産が2億68百万円減少した結果、20億7百万円増加の443億22百万円となりました。

負債は、前期末と比べ買掛金などの増加もあり、流動負債が7億87百万円増加しましたが、固定負債は長期借入金の返済などにより9億76百万円減少した結果、1億89百万円減少の234億48百万円となりました。

株主資本は、前期末と比べ別途積立金が20億円増加したことにより、208億74百万円となりました。この結果、株主資本比率は前期末に比べ3.0ポイント増加の47.1%となりました。

●損益の状況

当期の売上高は、商品売上が増加しましたが、製品売上が減少したため、前期に比べ8億48百万円減少の394億33百万円となりました。

売上原価率は、売上構成の変化により2.6ポイント上昇しましたが、経費削減などにより、売上高営業利益率は1.3ポイントの減少にとどまりました。

当期純利益は、税制改正に伴い法人税などが前期に比べ減少したことにより、30億68百万円となりました。

●利益処分

科　目	第31期	第30期
当期未処分利益	**4,451**	**4,251**
任意積立金取崩額		
特別償却準備金取崩額	7	7
計	4,459	4,259
利益処分額		
利益配当金	739 1株につき50円 （普通配当30円） （記念配当20円）	620 1株につき42円 （普通配当30円） （記念配当12円）
取締役賞与金	152	241
監査役賞与金	5	12
任意積立金		
特別償却準備金	—	0
別途積立金	2,000	2,000
次期繰越利益	**1,562**	**1,383**

（単位：百万円、百万円未満は切捨て）

●キャッシュ・フロー計算書（要旨）

科　目	第31期 2003年4月 1日から 2004年3月31日まで	第30期 2002年4月 1日から 2003年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	**1,863**	**7,096**
投資活動によるキャッシュ・フロー	**△ 535**	**△ 1,148**
財務活動によるキャッシュ・フロー	**△ 1,609**	**△ 2,741**
現金及び現金同等物に係る換算差額	**6**	**11**
現金及び現金同等物の増減額	**△ 275**	**3,219**
現金及び現金同等物の期首残高	**10,940**	**7,721**
現金及び現金同等物の期末残高	**10,664**	**10,940**

（単位：百万円、百万円未満は切捨て）

●配当金について

当期の利益配当金につきましては、当期の業績、財政状態及び諸般の事情を勘案するとともに、株主の皆さまの日頃のご支援に対する感謝から、普通配当30円に、2004年4月1日に東京証券取引所及び名古屋証券取引所市場第二部から第一部へ指定され、さらに2004年12月をもちまして創業40周年を迎えることを記念した記念配当20円を加え、1株につき50円とさせていただきました。

●キャッシュ・フローの状況

当期末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前期末と比較し微減の106億64百万円となりました。

営業活動による資金は、売上債権等の増加等により前期末と比較し52億33百万円減少し18億63百万円となりました。

投資活動による資金は、設備投資額をおさえることにより前期末と比較し6億12百万円改善されたため、5億35百万円の支出にとどまりました。

財務活動による資金は、借入金の返済額をおさえたことにより前期末と比較し11億31百万円の支出が減少し16億9百万円の支出となりました。

Corporate Profile

会社概要 (2004年3月31日現在)

●商　　号　ダイコク電機株式会社
DAIKOKU DENKI CO., LTD.

●創　　業　1964年12月

●設　　立　1973年　7月

●資 本 金　6億7千4百万円(発行済株式総数14,783,900株)

●本　　社　名古屋市中村区那古野一丁目47番1号
名古屋国際センタービル2階

●従業員数　正社員数411名　準社員数78名

●事業内容　パチンコホール向けコンピュータシステムの開発・製造・販売
パチンコ・回胴式(パチスロ)遊技機用ユニットの開発・製造・販売

●役　　員　(2004年6月29日現在)

代表取締役社長	小山　晴久
代表取締役副社長	栢森　雅勝
代表取締役専務	栢森　秀行
常務取締役	江川　正行
常務取締役	栢森　健
取締役	伊東　幹夫
取締役	香川　芳夫
取締役	伊藤　茂年
取締役	泉家　邦雄
取締役	平原　正義
取締役	岩根　節雄
取締役	堀田　昌郎
取締役	國保　徳丸
常勤監査役	山崎　健二郎
監査役	田中　正雄
監査役	敷田　稔
監査役	村橋　泰志

(注) 1. 取締役　堀田昌郎氏、國保徳丸氏は、
商法第188条第2項第7号ノ2に定める社外取締役であります。
2. 監査役　田中正雄氏、敷田稔氏、村橋泰志氏は、
「株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律」第18条第1項に定める社外監査役であります。

本社

本部事業所

●事業所一覧

●本　　社　〒450-8640　名古屋市中村区那古野一丁目47番1号
名古屋国際センタービル2階
TEL(052)581-7111(代表)

●本部事業所　〒480-0395　春日井市坂下町1丁目875
TEL(0568)88-7111

●高蔵寺事業所　〒487-0014　春日井市気噴町一丁目2番地
TEL(0568)51-7111

●春日井事業所　〒480-0304　春日井市神屋町1番26
TEL(0568)88-7771

●拠点一覧

●北日本支店　〒980-0014　仙台市青葉区本町二丁目2番3号
鹿島広業ビル

●札幌営業所　〒001-0011　札幌市北区北十一条西四丁目1番地44
ベルエアプラザ

●盛岡出張所　〒020-0135　盛岡市大新町6番35号
アイビル大新町

●関東支店　〒110-0005　東京都台東区上野七丁目2番10号
上野駅前第一生命ビル

●茨城営業所　〒305-0032　つくば市竹園二丁目2番地4
第2・ISSEIビル

●北関東営業所　〒338-0832　さいたま市桜区西堀八丁目21番35号
カタヤマ本社ビル

●新潟出張所　〒950-0953　新潟市大島209番地

●中部支店　〒480-0304　春日井市神屋町1番26

●金沢出張所　〒920-0027　金沢市駅西新町3丁目9番26号

●西日本支店　〒532-0003　大阪市淀川区宮原四丁目1番14号
住友生命新大阪北ビル

●岡山営業所　〒700-0927　岡山市西古松一丁目1番26号
オム第Ⅱビル

●九州支店　〒812-0016　福岡市博多区博多駅南二丁目1番9号
ヤマエ博多駅南ビル

●広島営業所　〒731-0138　広島市安佐南区祇園3丁目45番11号

●表参道デザインスタジオ　〒107-0061　東京都港区北青山三丁目5番17号
はる木ビル

Stock Information

株式情報 （2004年3月31日現在）

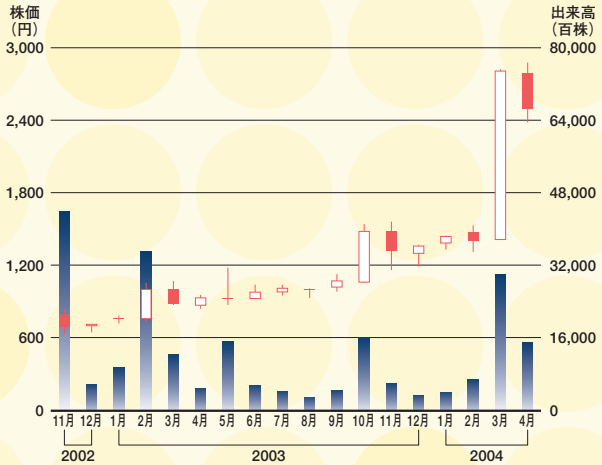
●株式状況

会社が発行する株式の総数…… 66,747,000株
発行済株式総数…… 14,783,900株
株主数…… 3,269名

●大株主

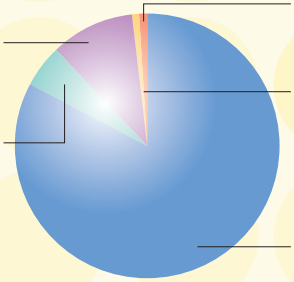
株主名	持株数（株）	議決権比率（%）
栢森　雅勝	2,139,850	14.48
栢森　秀行	2,126,800	14.39
栢森　健	2,125,300	14.38
栢森　隆	1,197,500	8.10
財団法人栢森情報科学振興財団	750,000	5.07
栢森　新治	737,150	4.99
栢森　美智子	626,000	4.23
ダイコク電機従業員持株会	543,500	3.68
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	234,800	1.59
竹田　和平	200,000	1.35

●株価及び出来高の推移



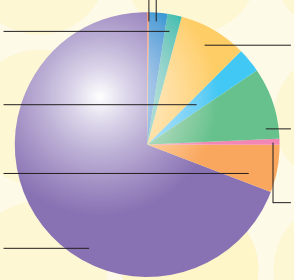
●株式分布状況

所有者別

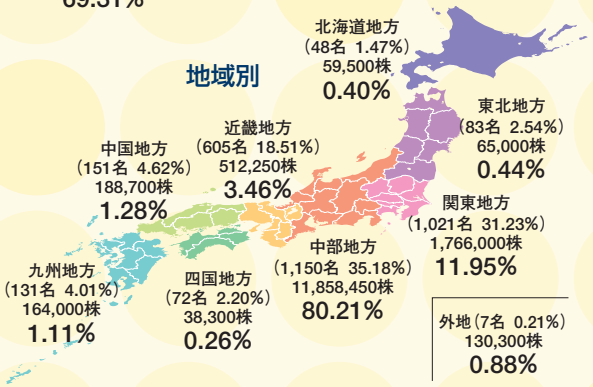


（注）その他国内法人には、証券保管振替機構名義株式1,400株を含みます。

持株数別



地域別



（注）持株数別及び地域別の株式分布状況は、証券保管振替機構名義株式1名、1,400株を含みません。

株主メモ

●決算期	3月31日
●定時株主総会	6月下旬
●配当金受領株主確定日	利益配当金　3月31日 中間配当金　9月30日（中間配当をする場合）
●基準日	3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
●名義書換代理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
●同事務取扱場所	〒460-8685 名古屋市中区栄三丁目15番33号 中央三井信託銀行株式会社　名古屋支店証券代行部 TEL.（052）262-1520
●同取次所	中央三井信託銀行株式会社　本店及び全国各支店 日本証券代行株式会社　本店及び全国各支店
●公告掲載新聞	日本経済新聞
●貸借対照表ならびに損益計算書のホームページアドレス	http://www.daikoku.co.jp/investor/kessan.html

〈お知らせ〉
住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求及び配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル0120-87-2031で24時間受付しております。

ダイコク電機株式会社
〒450-8640　名古屋市中村区那古野一丁目47番1号　名古屋国際センタービル2階
TEL（052）581-7111（代表）
ホームページ　http://www.daikoku.co.jp

R100
古紙配合率100%再生紙